

## 日本 YEG の歴史・沿革

商工会議所青年部は、次代の地域経済を担う後継者の相互研鑽の場として、また青年経済人として資質の向上と会員相互の交流を通じ、己の企業の発展と豊かな地域経済社会を築くことを目的として、各地の商工会議所に設置されている。しかし、商工会議所のある都市部には青年会議所や他団体の青年部が存在し、中でも青年会議所の場合は商工会議所が面倒をみているところも多いなどの背景もあり、青年部をつくることに消極的な商工会議所もみられる。こうした一方で、商工会議所青年部の活動の中心は、あくまで企業経営の勉強の場であり、交流を通じて企業の発展を図ることや商工会議所の強化にあるという理念、青年会議所等との相違点についての理解、認識が深まるにつれて、青年部を設置する商工会議所が急速に増えてきた。

このような中で、先進青年部の中から日商に対して「青年部の全国組織化を図ってほしい」「全国大会を開催してほしい」という要請が昭和 54 年頃から出てきた。そこで日商では、全国組織化や全国大会を開催する前に、商工会議所青年部の目的、あり方を確認し合う必要があるとの観点から、地域ブロックごとに青年部の運営研究会を開催してきた。こうした経緯を踏まえ、「行動する商工会議所に若い力を」のスローガンのもとに、商工会議所青年部の初めての全国大会が 56 年 11 月に群馬県前橋市で開催された。この大会で「全国組織化を図れ」との提案があり、参加者全員の総意で採択された。

これを受けて日商では、全国 9 ブロックの青年部の代表 25 人から成る「全国組織化推進委員会」を設け、全国組織化の必要性について再確認するとともに、全国連合会が行うべき事業とその収支予算等について検討を重ねてきた。57 年 10 月に富山県高岡市で「若い力を結集し、商工会議所に新たな飛躍を」のスローガンのもとに第 2 回の全国大会が開催されたが、その際、全国商工会議所青年部連合会の結成大会も併せて開催され、全国組織化推進委員会が検討してきた連合会の規約、事業計画、収支予算等が同大会で諮られ、その結果、全国商工会議所青年部連合会が 58 年 4 月 1 日に発足することとなった。

## 全国大会の歩み

### ○ 令和元年～平成 28 年

第 39 回ふじのくに静岡ぬまづ大会、第 38 回日本のひなたみやぎき大会、第 37 回岐阜かかみがはら大会、第 36 回北海道いわみざわ大会

### ○ 平成 27 年～平成 23 年

第 35 回吉備の国おかやま大会、第 34 回京都大会、第 33 回とちぎ宇都宮大会、第 32 回おきなわ那覇大会、第 31 回越中富山大会

### ○ 平成 22 年～平成 18 年

第 30 回みやぎ仙台大会、第 29 回えひめ松山大会、第 28 回びわ湖大津大会、第 27 回千葉大会、第 26 回大分大会

### ○ 平成 17 年～平成 13 年

第 25 回愛知大会、第 24 回帯広大会、第 23 回米子大会、第 22 回大阪大会、第 21 回小田原・箱根大会

○ 平成 12 年～平成 8 年

第 20 回鹿児島大会、第 19 回新潟大会、第 18 回青森大会、第 17 回徳島大会、第 16 回奈良大会

○ 平成 7 年～平成 3 年

第 15 回大宮大会、第 14 回長崎大会、第 13 回津大会、第 12 回山形大会、第 11 回松江大会

○ 平成 2 年～昭和 61 年

第 10 回浜松大会、第 9 回高知大会、第 8 回山口大会、第 7 回沖繩大会、第 6 回福島大会

○ 昭 60 年～昭和 56 年

第 5 回福井大会、第 4 回水戸大会、第 3 回大分大会、第 2 回高岡大会第 1 回前橋大会